

---

# 歪なボクラ ~ CRUSH ON YOU ~

梅花空木

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

歪なボクラ〜CRUSH ON YOU〜

### 【Nコード】

N8159N

### 【作者名】

梅花空木

### 【あらすじ】

レイシーに恋をしてから、様子がおかしいグレン。そのグレンにそれぞれ想いを寄せるジャックとロツティだが…。

それは些細なしかし確かな違和感……。

「ちょっと！アンタまたバスカビル家に入ってウロチヨロして！いくら抜け道を教えてもらったからって、少しは隠れるとか自重しなさいよ！」ロツティが声を張り上げる。

「やあ！ロツティ！今日も一段と美しいね。でも私にもたまには笑顔で接して欲しいなあー。それに自重も何もロツティが声を張り上げたら、同じだと思っただけ？」わざとらしくロツティの反応を伺う。  
「……ア……ンタねえ！笑顔で接して欲しいなら誰のせいで、毎度毎度こんな顔してるかくらい考えなさいよ……！」ブルブルと怒りで震えているロツティ。

「んー？……あ、分かった！グレン？あいつ見かけによらず鈍感だからね。」と冗談のつもりで言ったのに、  
「グレン様を侮辱しないで！」とロツティは言い放ち、睨んでくる。どうやら真に受けた様だ。

「ふう。ごめんよ、冗談だからそんな顔しないで？……ところでロツティは最近のグレンの様子の变化に気づいてるかい？」『まいった』という風に両手を軽く上げ、真顔になり問う。

「？……グレン様は何も変わってないじゃない。相変わらず木陰で黄昏るのが好きで、寡黙で……。」何故そんなことを聞くのかという表情のおロツティ。

「確かにそれは変わってないけどさ……、前は返事くらいはしてくれたのに、ほとんど返事もしてくれなくなっただよ！？」ロツティにすがりつく様に近づく。

「ただ単純に迷惑なだけじゃない？……ほら、嫌われたとかね！」さ

りげなく離れて、見下す様に笑うロツティ。

「…ロツ…ティ…のバカあ！」子供みたいな罵倒をして駆け出す。  
(例え冗談でも言われたく無かった。例えそれが真実だとしても気づかないフリをしたかった。)

「グレン！」ぐちゃぐちゃになった気持ちを抑えるように、いつもより大きな声で呼ぶ。

「……。」返事は愚か反応も無く、こちらを見向きもしない。

「さつきね、ロツティにあっただけど…私には、いつも手厳しいというか…まあ怒った表情も可愛いかおからいいんだけど。もうちょっとフレンドリーになってくれないと思うんだよね。」ロツティの話をしながらも、グレンの様子が気になって、自然と早口になる。  
「……。」またしても何も反応がない。

「…っ…あ！そうそうべザリウス家の庭に虹色のバラが咲いていてね！グレンにも見せいなあ。」明らかな嘘をつく。

「……。」またも空振り。

「…グレン…好きだよ。」なんとか普段の彼に戻って欲しくて、ずっと言いたくて、言えなかつた気持ちを口にする。

「……ジャック、いつきたんだ？」グレンが目を丸くする。どうやらグレンは、ジャックが話しかけていたことに、気づいてなかったらしい。

「あっ…今！たった今だよ？グレンって声かけたところ。それなのに、グレンったら、心ここに在らずな感じでさ。」ぶうと頬を膨らませる。

「ああ…すまん。少し考えごとをしていてな。」申し訳なさそうに言うグレン。

「考えごとって…あのレイシーって子のこととか？」違って欲しいと思いつつも、なんだか確信めいた気持ちがあった。

「よく分かるな。」感心した様子のグレン。

「ん…だって、グレンのことだもん。」なんだか切なくなつて、目

線をグレンから外す。

「レイシーに会えない日は、何も手につかないし、心細いというか淋しいというか…とにかくそんな感じなんだ。」そう言っている間もグレンは、グレンの心は、どこか遠くへ行っている様だった。

レイシーを好きになっても、グレンはグレンだから、自分への態度が変わるなんて思ってもみなかったんだ…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8159n/>

---

歪なボクら ~ CRUSH ON YOU ~

2010年10月11日00時07分発行